

《Lesson 2》 There + be 動詞 の特徴

今回学ぶ「○○が△△にある（例：There is ○○ on △△.）」という表現をしっかりと理解するためのポイントは、2つ。

- (1) ○○の部分には不特定の名詞が入る
- (2) △△の部分には特定されている名詞（**the** + 名詞 / 所有格 + 名詞など）が入る

《説明 1: 「○○の部分には不特定の名詞が入る」について》

今回の練習で登場する **There + be**動詞 は、基本的に

新しい物や人を紹介する時に使われる表現

となります。そのため **There is a ~ .** や **There are some ~ .** といった、名詞を特定しない形がよく使われます。例えば「一人の生徒がいる（**There is a student.**）」「何本かペンがある（**There are some pens.**）」といった形です。違う言葉で言えば、この **There + be** 動詞 の形では、

基本的に「固有名詞」「**“the”**や所有格がつく名詞」が「ある」という言い方はしない

ということです。では、固有名詞、**the** や所有格がつく名詞が「ある」と言いたい場合はどうするのか？それは、

There + be 動詞 の形ではなく、 その固有名詞、**the** や所有格がつく名詞を主語にして文を作る。

- <例> Taro is in the meeting room. = ○ There is Taro in the meeting room. = ×
(タロウは会議室にいます)
- My house is in Osaka. = ○ There is my house in Osaka. = ×
(私の家は大阪にあります)

《説明 2: 「△△の部分には特定されている名詞（**the** + 名詞など）が入る」について》

そして「○○が△△にある（例：There is ○○ on △△.）」という表現の△△の部分には、特定されている名詞（**the** + 名詞 / 所有格 + 名詞 / 固有名詞など）が入ります。例えば、あなたとあなたの友人の目の前にテーブルがあり、そのテーブル上にペンがあるとしましょう。そこで、あなたが「ペンがテーブルの上にあります」と英語で言う場合、ペンは今紹介されたものなので **a pen** となるのですが、テーブルに関しては「目の前にあるテーブル」と限定されているので、**the table** となります。そのため、

There is a pen on the table.

という文になります。同様に、△△には、場所を特定している固有名詞や所有格のついた名詞も置くことができます。

<例> There is a big poster on the wall. = ○ (on a wall = ×)

(壁に大きなポスターがあります)

《「どの壁」について話しているか限定されているため the wall になる》

There are many cheap restaurants in Utsunomiya. = ○ (in a city = ×)

(たくさんの安いレストランが宇都宮にはあります)

《「宇都宮」と限定されている》

【ポイント！ There + be 動詞 + ～. の代わりに使える have】

「いる・ある」は There+be 動詞 + ～. の形以外でも have で表すことができます。例えば「私たちが住んでいる市には、3 つの高校がある」という文。この状況を説明する場合、英語では、以下の3つの表現が可能です。

- (1) 「私たちの市には3 つの高校があります」
→ There are three high schools in our city.
- (2) 「私たちの市は3 つの高校を持っています」
→ Our city has three high schools.
- (3) 「私たちは3 つの高校校を持っています」
→ We have three high schools.

「私たちの市」を「人」のように扱うことや、「私たちの市=そこに住んでいる人たち=私たち」と考えることもできるのが英語の特徴です。